

県P新聞2月号「県P連が行く」  
長崎県PTA連合会会長 松本 光生  
西海市PTA連合会会長 竹口 健一郎  
西海市教育委員会教育長 渡邊 久範

PTAの在り方について

松本： 次の話題にいきたいのですが、今話題にもなったPTAは過渡期に来ているというところで、今後のPTAの在り方についてお話をさせていただきたいと思います。私は常々、いろんなところでPTAの役割、目的の明確化が大事ですとお話をさせていただいているのですが、竹口さんの考えるPTAの役割や目的というのは何かありますか？

竹口： PTAはいったい何なのだろうかと考えました。やはり保護者にとっての選択肢の一つであり、それが子どもたちのためにある。親たちが悩みを共有し、学ぶ場であるのがPTAだと思います。

ここから大分踏み込んだ話をしたいと思います。PTAは絶対なければならないというものではないというのも、日本全国に広まっています。PTAをなくした学校もあります。私自身もPTAという組織が絶対存在しなければいけないとは思っていません。

でも、有った方が学校と保護者が教育行政とつながりやすいと思います。その中でPTAはその連絡調整をする役、そういった役割であればいいのですが、学校の仕組みの中にPTAが入っています。卒業式や運動会などでPTA会長の挨拶があり、学校保健委員会の中にPTAも組み込まれています。市でいったら市でしている何とか委員会、協議会にPTAが組み込まれている。

ここで問題になってくるのがPTAは任意団体なので、保護者がPTAに加入するかは任意なのに、強制的な加入というか加入申し込みを取っていない。それなのに組織に組み込まれているという現状。それを改革していくには、学校や行政の組織の中にPTAが組み込まれている仕組みを変えていかなければならないと思います。

ある社会教育の会議に参加した時に、PTAで何とかできないかと言われましたが実際は、話し合う場がありません。市P連でも理事がいますが頻繁に集まって会議をしているわけではないし、そういうネットワークも完全に出来上がってもないし、何

とかしないといけないという課題を抱えていることはわかります。PTAの会長も一年単位で変わっていくし、PTA自体もがっつり組み込まれて良いような仕組みも出来上がっていません。

この辺のバランスの悪さは、現在のPTAの在り方としてはよろしくないということもあって西海市P連は『させられないPTA、主体的に動くPTA』と掲げて活動しています。親たちが、大人が学ぶ場所で、できる環境を整えていくという感じです。他の市町はどんな感じですか。

松本： 強制加入問題と最近よくいわれていますが、任意加入問題ですよ。もちろん加入は任意ですので無理矢理強制加入させることは絶対にやめていただきたいと、私たちからも皆さんにお伝えしているところですよ。

ここで大事なのは何でPTAが必要なのか、何で学校が必要なのか、学校の役割、PTAの役割は何なのかということから始めていただきたいと思っています。先程、竹口さんが心配しているのもおそらくシステムのところで、そちらの方を先にいわれたときに対応が後手になり、PTAそのものを揺るがしかねなくなってきているということが、おそらく悩ましいところかと思っています。

まだ強制加入問題が出ていない市町では、ぜひ今のうちにPTAがなくなったらどうなると思うか、PTAの役割、学校の役割は何かということを明確に話し合っていたきたいということを、私たちは進めさせていただいています。

現場でそういう問題が出てきている市町に関しては、何をしなければならないのかというと、PTA活動の目的は必ず言わないといけない。

もう一つ、システムとしていうならば入会申込書を取らなければならないのか？入会申込書を取らなければならないという法律はありません。なぜこれをしないといけないようになったのかというと、平成29年に変わった個人情報保護法の問題で、情報を集めるときにこの情報を何に使用するのかということを確認しなさいということです。学校にお願いして集めた情報を、PTAでどんなことに使うか明記することが重要です。でも、北九州市では学校が集めた情報は、出してはいけないというような条例を作っていると思います。結果的にPTAが団体と会員の情報を集めるその方法を進めていく。私の経験上、

その情報を使うのは、PTAからの連絡と会費徴収のチェック、会費徴収のための兄弟姉妹の確認、他に何かあるかということにはないと私は思います。PTAからの情報や活動のお手伝い、研修会のご案内、そういったことの連絡ツールとして使われていると思っています。それにご理解いただける方に入りたいし、それが不必要と言われる方もいると思います。そういう方を無理やり入れることは出来ません。

でもいつかその方の気持ちが変わるかもしれないので、常にアクションは起こしていただきたいと思っています。その一つのツールが広報紙です。会員の方にだけではなく非会員の方にも渡せるような広報紙を作っていただきたい。そうすることで、どのような活動をしているのかということがわかっていただいたら、PTAに入ってみようかなと思っています。

今の保護者は目的意識を非常に強く持っていると思います。何のために活動しているのかと無駄を省きたいということが多くあると思います。目的意識をしっかりと皆さんにお伝えすることが私は広報紙の役割であり連合会の役割だと思います。

教育長にお聞きしたいのですが、どんな保護者であってほしいか？そしてどんなPTAであってほしいのか？少しお話を伺いたいと思います。

渡邊： どんな保護者？あまりに広すぎて何と答えたらいいのか？先程のPTAのお話の中で、今の小・中学校PTAの保護者の方の負担感、こんな活動を一杯するから大変だという話がありますか？

竹口： 強制的に上からトップダウンで降りてくるものに関しては、やはり自分たちの都合を考えないで降りてくるという感じの話はよく聞きます。

渡邊： 私は高校の教職員でしたが、高校から見ると小・中学校のPTAは本当にいろんな仕事があって、役員になるといろんな会議に出席するので、負担感があるのではないかと思います。「時代の曲がり角」というお話もありましたが、戦後、学校教育の中でPTAが出来たころは、専業主婦というのが大半で、PTA活動はお母さんが出るというそういう時代だったと思います。

しかし、現在では共稼ぎとなりなかなか時間がないうちで、昔と同じようなことをしようとするから、非常

に負担感が増しているのだらうと思います。PTAというのは、本当はシンプルで単Pが基本だと思います。

私はよく目的と手段という話をしているのですが、学校と保護者が一緒になって子どもを健やかに育てましようというのは目的で、そのために作った組織がPTAでそれは手段なのです。そういう意味でいろんな組織が硬直化してきたときに組織そのものが目的になってしまうことはあります。

ここは原点に返って、本当の目的は何かPTAの目的は何かという原点に立ち返って、そのためにPTAが本当に手段として必要なのかどうかを見直す時期かと思っています。そういう意味ではPTAは必要な組織だと思います。

例えば先程の携帯電話の話で、子どもが遅くまで使って困っているといった時に、そういう何も組織がなかったら保護者の皆さんが悩んで家庭の中だけでは解決できないこともあります。保護者同士が話をして、つながらなくてうまく子育てができない部分もたくさんあると思います。

そういうところからPTAは、本来は保護者が勉強の機会や共同で相談しながら、子育てを学校と一緒にやって、一緒にしていましようということが始まった組織が、時代が経つと組織そのものが活動することが目的になってきて、やらされ感が強いのかと思います。

勉強でも同じだと思いますが、自分からやるのと、人からやらされるのは全然違います。そういう意味では目的をもう一度見直すと負担感が減るのではないかと思います。一度リセットして、単Pから活動を見直してほしいと思います。それが必要であればその上の組織が必要で、西海市内の他の単Pの問題点を参考にしたいとなって市P連や県P連、日Pがあるのだと思います。

また、任意加入のお話ですが、入学時に加入申込書を出すようになると加入しない人が何割か出てくると思いますし、不公平感があると思います。任意加入だけだと、結果的に全員加入するというのが理想です。

松本： そういった家庭が増えていくことを私たちも求めています。しかしながら私は逆行しているのかもしれませんが、あくまでPTAは任意で集まってやるものなので、強制するようなことを生み出さない単Pを作

っていかなければならない。参加できないのには、それぞれの事情があります。私たちは、参加できない方の子どものためにも一生懸命活動します。

渡邊： 西海小学校が「は・あ・と・ふ・る運動」で発表した内容が正にそれで、保護者にもいろんな都合があるから、一律にお願いするのではなく参加できる人が活動するというで上手にPTAの運営ができています。そういうふうな見直しが必要だと思います。

参加できる方で活動した方が楽しくできるし、参加しなかった方を非難するようなことにならないと思います。強制的ではなくて行ってみたら、保護者同士で友達になれて楽しい部分もあると思います。

竹口： しなければならぬことというのは、ある一定の話し合いが行われて合意を取った上でしなければならぬ。

渡邊： 本当にしなければならぬことなのかということを見直してほしいと思います。昔からしているので、今もしているというのはたくさんあると思います。それはその当時は必要だったかもしれないけれども、今の時代にはもう要らないものもあると思います。そういうことの見直しです。

竹口： 目的まで引き継がれていないことが問題だと思います。

地域行事も同じなのですが、なぜこの行事があっただけその行事を脈々と受け継いできたのか。これから先も受け継いでいった方が良くとなされているのかという本質の部分が受け継がれていないのは結構問題だと思います。

渡邊： 学校の行事もこの2、3年コロナでだいぶ中止になったり、縮小したりしてきました。やはりこれはした方が良くとかいうのは、この2、3年で分かったと思います。

だから、PTAも今までしていたのでという学校の文化もあるのですが、そこはしっかり見直しをして、取捨選択をして新しいことを始めてもいいと思います。

松本： 最後に、もしPTAがなくなったらというお話をさせていただきたいと思います。PTAが無かったらどうなるかということを実に想像できていたら、しなけれ

ばいけないことの目的が出てくるのではないかと私は思っています。

もし、単Pが無くなったらどうなると思われますか？

竹口： PTAを無くしましょうとなったら、一旦保護者の気持ちはホッと楽になると思います。

しかし、徐々に不安感が募ってくると思います。何に対する不安かというのは、学校とどんなふうにつながっていけば良いのか、学級 PTA もなくなるので学級懇談会すら無くなってしまふ。お友達の顔は分かるけど、お友達のお父さん、お母さんの顔はよく分からない。つながりがないことで、起きなくてもよかつたトラブルが起きてしまふし、つながっていることによって解決できることもあると思います。

松本： 教育長はいかがでしょう？もし単Pが無くなったら。

渡邊： 子育てとは基本的には保護者が中心となるもので、先生と保護者、学校に行けばできなくはないのですが、やはり保護者のいろんな不安というものもあると思います。

そういう意味では、その他の保護者に相談するところが希薄になってきますので、保護者の不安、孤立感というのは高くなるし、子どもというのは自分の子どもだけ見ていけばいいものではなくて、近所の子どもとか他の学年の子どもにも目を配らなくてはいけないのですが、PTAという組織がなくなったらそういう部分も希薄になってくるかなという意味で、学校と先生、学校と保護者だけでなく、PTAという広い網があつて、いろんな子どもを見守るというのは大事だと思います。

そこが原点なので、そこをもう一度しっかり見直さなければいけないと思います。

松本： ありがとうございます。私はいつも学校の役割、PTAの役割とは何なのかということを行っています。

学校の役割とは、学習を通じて探求心を育て、将来子どもたちが生きたいように生きられる、人生の選択肢を増やすことが学校の役割であると思つています。

それではPTAの役割って何かと考えたら、先程言った、もしもPTAが無くなったらどうなるかを考えます。PTAが無くなるとどうなるかということ、私は学校

側が保護者から求められるものが高くなってくるといふふうに思っています。

先程言った学校の役割は人生の選択肢を増やすものだと思つています。

ですから、本来ならば横断歩道の渡り方、挨拶の仕方、早寝早起き朝ご飯、そういったものを教えるのは保護者だと思つていますし、喧嘩の仕方、良い喧嘩の仕方、そして仲直りの仕方を教えるのも保護者だと思つています。PTAが無くなると、本来保護者が教えなければならぬことを学校に言うようになるし、極端にいうと学校の先生の負担は今の倍以上になるし、先生方がその対応が主になって子どもたちと向き合う時間が減ることになると思つています。子どもたちと向き合う時間が減ることとは、おそらく子どもたちの笑顔が減ると思つています。

だから、結果的にPTAが無くなると巡り巡って自分の子どもの笑顔が無くなる、少なくなっていく。

そして、PTAが無くなつても結果的に同じような団体ができると思つています。それは学校側がお願いをする。このままではいけないといつて保護者の有志で協力体制が生まれて、それなら保護者会を作るといふような形で名前が変わつて出てくるのではないかと思つています。

私はぜひ、今のPTAの方たちにこのことを想像していただきたい。無くなつたらどうなるのか。絶対、学校の先生方の負担は増えます。でも先生方だって働き方改革でいろんなことに対応ができなくなつていふので、そうなる結局また同じ組織ができてくるのではないかと。その時に1から作り上げるより今有るPTAの改革をしたほうが良い。本当に必要な活動は何なのか。

朝の挨拶運動って起源は何なのか？朝の挨拶運動は、挨拶を教えるために始まつたところもあると思つています。それがメインではなかつたはずで、おそらくあれは学校が乱れていた時期に学校の先生と保護者の方たちと話し合つて、子どもたちに朝から挨拶をしようとなつた。すると非行が減つていふという統計が全国的に出ている。それなら始めようといふことで挨拶運動が始まつていふ。

朝の挨拶運動と立哨とは違つて考えていただきたい。それが両方ならば、もちろん構わないのですが、交通指導は旗振りて横断歩道を渡らせるために立っているのではありませぬ。交通の指導をしなけれ

ばいけないのです。だから横断歩道を渡る前に1度止まることを教えなければならぬし、止まつてくれた車にありがとうといふことを教えるのが交通指導で渡らせることがメインではない。

そういったことを考えるのが保護者の集まりの私たちPTAだと私は思つています。そこに協力もしくは良い知恵をくださいといふところが学校であり、そういったことが協力できるのであれば、先生方にも一緒に協力していただきたい。

今、学校の役割とPTAの役割を明確にしておけば、お互いが協力し合う体制ができるのではないかと思つています。

長崎県の会員の皆さんに言いたいのは、PTAって何のために有るのか。そして、その活動は何のためにしているのか？ぜひもう一度見直して目的を再認識していただくと、どこで私たちがしなければならぬのかということが明確になってくるのではないかと思つております。

貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

私が本当に感じるのは、こつたお話を忖度なくできるこの西海市のこの環境が、絶対に子どもたちの良い環境を作り上げていふに痛感しました。

私自身も、県教委の皆さんや各町の教育委員会の皆様とこつやつて直にお話をさせていただいて、PTAの役割といふところとお願ひしたいところ、そして協力し合つて子どもたちに見せなければならぬところをぜひ今後も変わらずお話ししていきたいと思つております。

また、西海市に伺わせていただきたいといふに思つておりますので、今後ともぜひ皆さんと一緒に協力して長崎県の子どもたちのために活動していきたいと思つています。

今後ともよろしくお願ひいたします。今日はありがとうございました。